

## 女性連合・わたしたちのひろば

2023・1・15

参加者 13名

祈り 幹事

司会（幹事） 財政や会のあり方、活動をどうするのか？課題はたくさんあるが、連盟の中間答申が発表された、みんなで『これ連』で発表されたビデオを見ながら、世界宣教について共有したい。

<再開>

司会 国外と国内の境がなくなり、国外伝道が宣教師だけの働きではなく、私たちも共に生きるという意味で、国際宣教に代わって行くのだと思う。宣教師は派遣しないというのではなく、私たちの教会としての働き 教会が宣教師を派遣する場合にサポート 青少年の育成という働きに分かれていくように、考えようとしている。

>国際宣教の定義が出てきたが、和解の務めに仕えるというのが宣教なのか？イメージとして宣教はキリストを述べ伝える事であるが、和解の務めに仕えるというのが=キリストを述べ伝えるということになるのか？というのが疑問である。

司会 大きく括ると宣教があり、その中に伝道というキリストを伝えるという直接的な働きがあると思う。宣教は共に生きるということではないか。み言葉を受けながら互いの命を大切にすること。無理に言葉によって伝えるのではなく、生きざま=キリストの香りを放つことによって福音が伝わるのではないか。その中に連盟がこれまで大事にしてきた和解があり、世界宣教では重要なキーワードになるのではないかと考えた。

>伝道はイエスキリストを伝える→イエスキリストは、神と私たちを和解させてくださった→神様は私たちに和解の務めを委ねられた。和解の務めに仕えるというのは、神と私との和解。そして他者も神様との和解で生きる事ができるように。人と人との関係が罪によって壊されてしまったら、私たちはまた修復するためにイエスキリストの十字架の救いに与っていく。こうして一本に繋がって行くと思う。すなわち和解の務めというのは、私たちに託された福音宣教の働きとなる。と私は理解した。

> イエス様のご自身の働きはなにか？と説明なさった時に、それは神の国の福音を伝えること。と説明された→知っている人が知らない人に教える。持っている人が持たない人に与えるといったようなことではなく、たがいに仕え合っていく。土埃を共に浴びながら働いていくのが宣教。生き様を見直していくことが大切であるとする。

司会 知っているものが知らないものに教えるというのではなく、共に生きるということに視点を移さないといけないことに気づかされたことは感謝なことである。

> 女性連合がこれまで世界伝道を大事にしてきた。それは女性連合ハンドブックの使命を読み返す時に、世界伝道が世界宣教の使命そのものであることが分かる。ではなぜ世界伝道を世界宣教と言い換えるのか？

司会 言い換えることについては、連盟も一緒に考えてきたところであるが、伝道とは一方的に伝えることではない。というところから、伝道より宣教という言い方がよりふさわしいと思う。今まで女性連合が担ってきた、『痛み苦しむ方と共に』という部分をよりクリアに表す言葉だと思う。国際か？世界か？というのも難しいところと思う。

> 世界の中に日本があって、その日本の私の教会の中で世界宣教を担う。と出てきたので、あえて世界を国際と変える時に、何か意味づけがあるのなら教えてもらいたい。

司会 なかなか世界が日本を含むということが浸透してこなかった。世界というと国外におられる宣教師というイメージが強く、日本を含むことが伝わり切れていなかった。

> ハンドブックには、祈りと幻を持って取り組んでいる『世界宣教の働きのためにささげます。』と書いてある。この時の世界宣教は、国内外両方を示しているはず。松村あき子さんの本や、スチュワードシップの中でも、まさに自分の世界宣教と書かれてあった。一方連盟では、日本バプテスト連盟における国内外の伝道活動。となっている。追及すべき矛盾があった。女性連合の方が先取りして理解していたのではないか。

> 女性連合はこれまで世界宣教と言っていたが、連盟は国内・国外と明確に分けてきた。今は国内も国外もない。国際宣教という新しい言葉として変えて行こうとしている。女性連合が独自で国際宣教という言葉に代えようとしているわけではない。

> これまで使い慣れてきた言葉が変わるときには、どのような思いがあってそうしていくのか、の説明があった方が良いと思う。これまで世界祈祷週間献金を国外国内と分けてき

さげたのは、国内を忘れないために女性連合があえて分けてささげたのではないか。  
女性連合が世界という時に、国内を忘れないように、あえてそうしてきた。日本国内を大切にしていこうという心が常にあった。

司会 連盟は国外伝道室と国内伝道室に分けている。それによって。国内伝道室にも、ということで配分されることになったのではないか。これから連盟は宣教室ひとつになるのでその区別はなくなる。

> 世界バプテスト祈禱週間から国際バプテスト週間に代わるのか？これまで世界の中には被造物すべてを受け入れた意味合いが自分たちの中にはあったが、国際バプテスト祈禱週間はありえない感じがする。

司会 ありがとうございます。一つご意見として（いただきます。）女性連合独自の支援として、国内の女性たち子どもたち、緊急で必要のある方々を支えて行く、ということはこれからも大切。そしてますますアジアの方々への戦責告白に立った交わりも大切にしたい。教会で出会う方々との交わり・祈り・活動は、今の社会に通じる教会のあり方と思わされている。

> 国際になっていくのは連盟の仕組みが国際になっていくこと。これまでも女性連合オリジナルで献金を送ってきた活動もそのままだから、私たち女性連合のあり方は変わらない。今のあり方が変わらないのであれば、名称を世界と呼んでも良いと思う。国外伝道の標記が国際に変わるだけなのではないのか？

司会 祈禱週間の持ち方については、誰がどのように推進して、これまでのように目標額が必要になるのか？国外宣教委員会の中で連盟と女性連合と一緒に考え、一緒に決めて行こうという中で、祈禱週間の持ち方は1から一緒に考えていくのではないか。

> それは何年で考える事か？

司会 国外伝道委員会は今年度でなくなる。責任を持ってフルサポートで宣教師を派遣することも難しくなるため、移行期間を23年度24年度の2年間として、国外伝道委員会を臨時委員会とする。25年度から世界宣教委員会になっていくだろう。女性連合もしばらく協議が必要。方向性を連盟と協議していく。協議に2-3年はかかるであろう。決議しないまま、新しい世界祈禱週間のスタイルに持つていくことはできないので、切り替えのタイミングをどう反映していくのかがとても難しい。世の光や広場などを活用して、共有の場を持つこと、意見を伺うことはとても大事と思う。

> 今年9月の福岡大会では、そのような方向性を話し合う場があったら良い。

司会 そうしたいと考えている。移行期間を十分に持って行わないと、全国の女性たちに大きな転換の理解が得られない。トップダウンで伝えるのではなく、皆さんと共に地道に考えるプロセスが、恵みであり祝福であると思う。

> 自分の教会は女性会が何なのか？分かっていない。世界祈祷週間献金がやっと理解され、軌道に乗ったところ。それが今回の改革で国際宣教に代わることで、目標がよく分からなくなるだろう。女性たちの目を国外伝道に向ける方が、取り組みやすい。

司会 何十年もやってきたことを変えるのは並大抵のことではないと思う。今まで世界伝道を使命としてきたが、その先には私たちの視野を広げて、学んで、自分たちで考えて成長するという、女性のエンパワーメントがあるのではないか？そこまで視野を持っていけると、次の世代の女性たちに手渡していけると考えている。

> 言葉狩りではないが、『世界』とか『伝道』は使ってはいけない言葉にならないようにしてほしい。そこを否定すると。これまでの働きを否定することになる気がする。そのあたりを配慮してほしい。

> 世界祈祷週間について、世界と国際を言い換えると意味が違ってくる。英語にすると International と World になる。

例えば International Prayer Week にすると、外国の教会の人と一緒に祈るという意味になる。実際にやろうとしていることがそうでないなら、私たちの方から日本を含めて世界に対して祈ることを言いたいのであれば、国際 International を使うと意味が違ってくる。『国際』の使い方が間違っていると思う。『世界』 World の方が意味合いとしては良い。

司会 合同委員会で提案する。

> 国外伝道=宣教師を支える、ということが具体的でわかりやすかった。世界祈祷週間のアピールや声掛けもわかりやすかった。これが国外も国内も一緒になった国際宣教になっていくと、その働きの中心は、和解のつとめに仕える働き人になる。一人一人がキリストの弟子になっていく。その流れを考えると何をアピールしていけばよいのか？分かりにくい。国内の小さな働きも国際宣教の対象とするならば、もはや世界バプテスト祈祷週間と銘打っての働きでなくても良くないか？私たちは世界祈祷週間をどう取り組んでいけばよいのか？分からなくなる。理念や概念を先に提案してほしい。連盟の働きに参与していくことは

小さい教会も含めてすべての教会ができる事。宣教師を送ることや、教会に来る外国人とのつながりは、全ての教会に起こることではない。

司会 たたき台を持って、みんなで協議するというのが大事。福岡での対面協議は大事。そして広報することが大事

> ぼやっとしているので意見の言いようがない。もっとわかりやすく具体的に示してほしい。ネットにアクセスできない人もいる。世の光特集号を出すなど皆さんに伝える手段になるものを作ってほしい。

> 連盟の役員（理事）の4割を女性にしてくれないと、やっていけないことを早くわかってもらいたい。もっと早くに連盟役員の中の女性比率を上げてほしかった。

司会 広報は各地方連合の実行委員さんを通して、各連合に知らせていくのが現状。全国発送を活用して、女性会のみなさんで見してほしい。

なぜ女性は活動するのか？学びながら、成長していきたい。だから女性が活動することはやめられない。今まだこの時代でも低くされている女性として、まだまだ集まることは必要。低くされている女性たちよりももっと低くされているマイノリティーの方々のことをもう少しでも気づいていきたい。今後も第2週の土日にひろばを開催していく。

祈り 吉高会長